

「急」な操作 スリップ 一直線

①スリップ事故防止を指導する

- 冬道運転の基本を指導する
- 凍結しやすい場所を周知する

②西日による見落とし事故を防止する

- 西日での視界悪化対策を指導する



冬道運転の基本を指導する

冬道では、少しのミスが事故につながります。基本的な冬道走行のポイントを指導しておきましょう。

冬道での事故防止の基本は、スリップを起こさないことです。スリップすると車がコントロール不能になり、重大事故となる危険が高まります。

スリップの予防法として、急ハンドル、急ブレーキ、急加速といった「急」のつく運転操作をしないことにくわえて、スピードを抑えて慎重に走行することを指導しておきましょう。

また、冬道では停止距離が伸びることから、乾燥路と同程度の車間距離をとっているだけでは、前車に追突する危険があります。追従時は、意識して長い車間距離を確保することも併せて指導しましょう。

凍結しやすい場所を周知しておく

スリップ事故を防ぐポイントのひとつは、凍結しやすい場所を理解しておくことです。

凍結しやすい主な場所は次のとおりです。

- 日陰
- 橋の上
- トンネルの出入口
- 切通し

これらの場所は、他よりも気温が低いいため、路面が凍結しやすく大変危険です。

また、交差点は多くの車が停止発進を繰り返すためミラーバーン（タイヤに磨かれてツルツルになった路面）になりやすく、油断しているとスリップの危険があります。

こうした凍結・スリップしやすい場所を周知しておくとともに、その場所に差しかかったときは、早めかつ十分な減速をして、より慎重な運転をするよう指導しておきましょう。

西日による視界悪化の対策を指導する

冬は太陽の位置が低く、西日が眩しく感じる時間が長くなります。西日が目に入り視界が遮られると、信号や標識、歩行者等を見落とす危険が高まります。

JAFの実験によると、西日が当たらない状態では確認できた周囲の歩行者や対向車が、西日が当たる状態ではほとんど見えなくなるということです。

西日対策として、サンバイザーやサングラスを使用する、走行ルートを工夫するといった対策を指導しておきましょう。

また、歩行者にとつても西日はまぶしく、車を見落とす危険があるので、早めのライト点灯で、自車を目立たせましょう。